

はじめに

平成26年度は、佐賀県において高病原性鳥インフルエンザが発生し、その防疫対策に苦勞した年でありました。国内外では、新型インフルエンザやMERSなど新興再興感染症の脅威が続いており、備えるべき健康危機は増すばかりです。

佐賀県衛生薬業センターは、県民の生命と健康を健康危機から守るための科学的・技術的拠点として、食の安全、感染症のまん延防止や医薬品、生活環境、使用水の安全確保のための試験検査・調査研究等を行っています。

健康危機管理を的確に行うには、平時からの備えが重要であり、健康危機に関する情報を収集し、リスクを早期に発見して適切な対応を行う必要があります。

また、健康危機事象が発生した場合、早期に原因を特定して必要な措置を講じることが健康危機を最小限に抑えることにつながります。

地方衛生研究所には、地域における科学的かつ技術的に中核機関となるべく、機能の充実強化が求められているところですが、当センターでは平成22年の保健所衛生検査業務統合以来、限られたマンパワーで日常の試験検査業務に追われているというのも現状です。

医療や保健を取り巻く環境の急激な変化に対応すべく、BSL3施設の増設などを行ったところですが、科学技術が進歩する中で衛生研究所は、機器類などハード面の整備と職員の資質向上、人材育成が急務と考えています。

当センターの専門性機能の維持・向上を図るために、若手職員への伝達継承と積極的に専門研修や学会等に参加して資質向上に努めつつ、国、他県市の検査研究機関等と連携を深めながら、24時間365日体制で全職員一丸となって取り組んでいるところです。

このたび、平成26年度の調査研究結果及び業務実績を取りまとめた所報を作成しました。ご高覧いただければ幸いです。

平成28年2月

佐賀県衛生薬業センター所長 中尾 剛